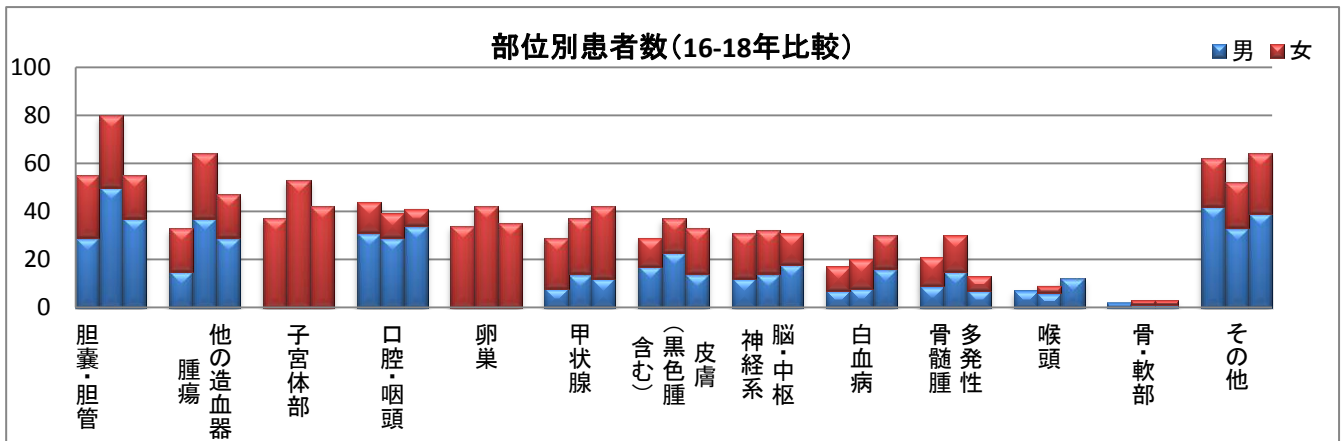
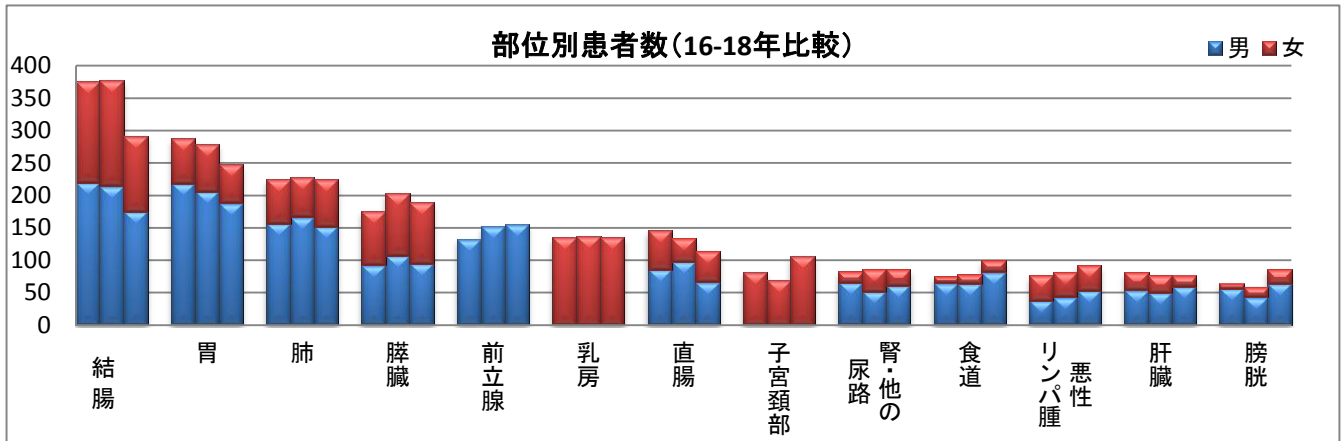


I. 2018年集計 ＜全部位＞



	結腸	胃	肺	膵臓	前立腺	乳房	直腸	子宮頸部	腎・他の尿路	食道	悪性リンパ腫	肝臓
16年	375	288	225	176	133	135	146	81	83	75	77	81
17年	377	279	228	204	152	137	134	69	86	78	81	76
18年	292	248	224	189	155	136	114	106	86	100	92	76

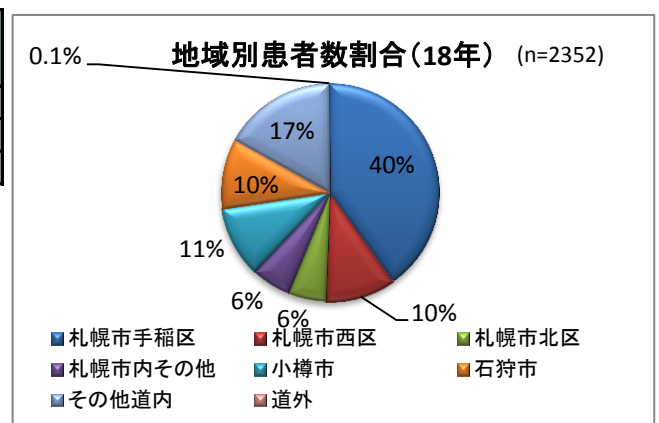
	膀胱	胆嚢・胆管	他の造血器腫瘍	子宮体部	口腔・咽頭	卵巣	甲状腺	皮膚(黒色腫含む)	脳・中枢神経系	白血病	多発性骨髄腫	喉頭	骨・軟部	その他	総計
16年	65	55	33	37	44	34	29	29	31	17	21	7	2	62	2341
17年	59	80	64	53	39	42	37	37	32	20	30	9	3	52	2458
18年	86	55	47	42	41	35	42	33	31	30	13	12	3	64	2352

18年症例より多重がんの判定ルールが変更になったため、上位件数の部位が前年と比較して大きく減少しているのがみられる。

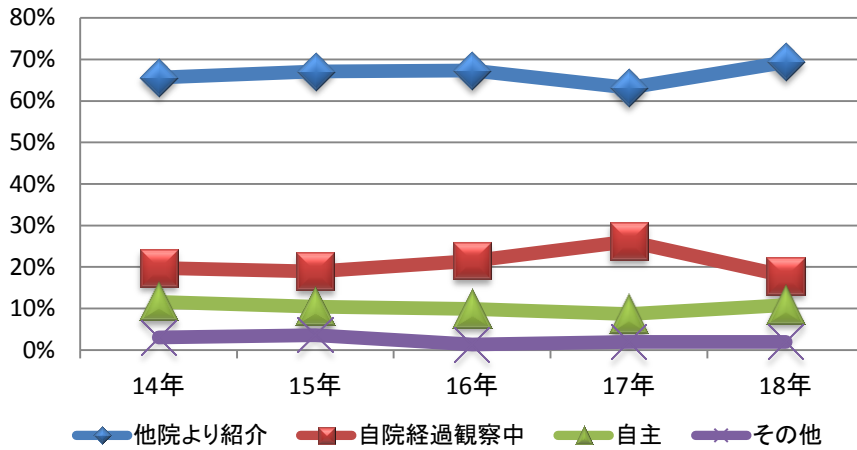
地域別患者件数

	札幌市手稲区	札幌市西区	札幌市北区	札幌市内その他	小樽市	石狩市	その他道内	道外
16年	889	242	154	108	264	253	415	16
17年	929	273	133	140	265	258	454	6
18年	945	245	131	139	249	244	396	3

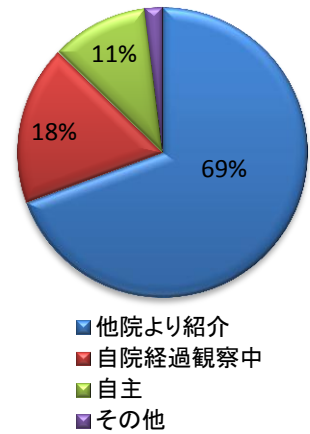
診断時の患者居住地をもとにした地域別患者数では、手稲区の患者数が前年より増加している。
18年単年の割合では、札幌市内が6割を占めており、市内からの受診が多くみられる。



来院経路割合

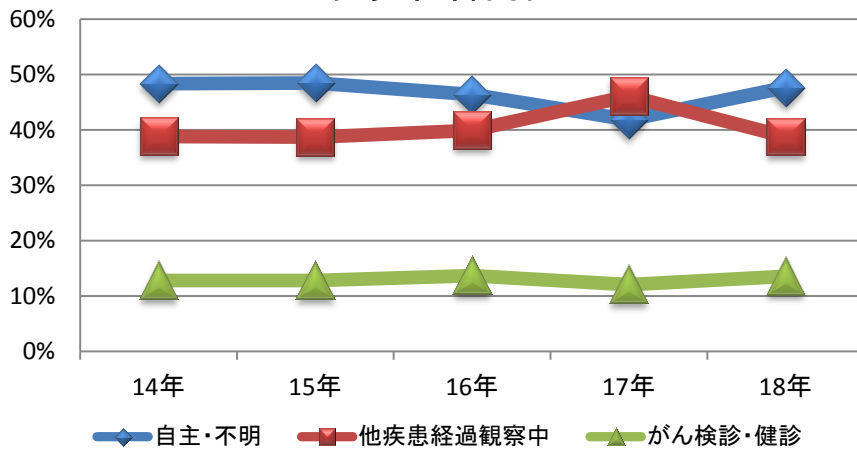


来院経路割合(18年)
(n=2352)

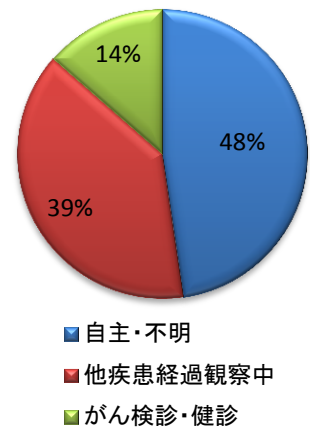


「自院経過観察中」の割合が減少傾向となっており、
18年単年では「他院より紹介」の割合が約7割を占めている。

発見経緯割合

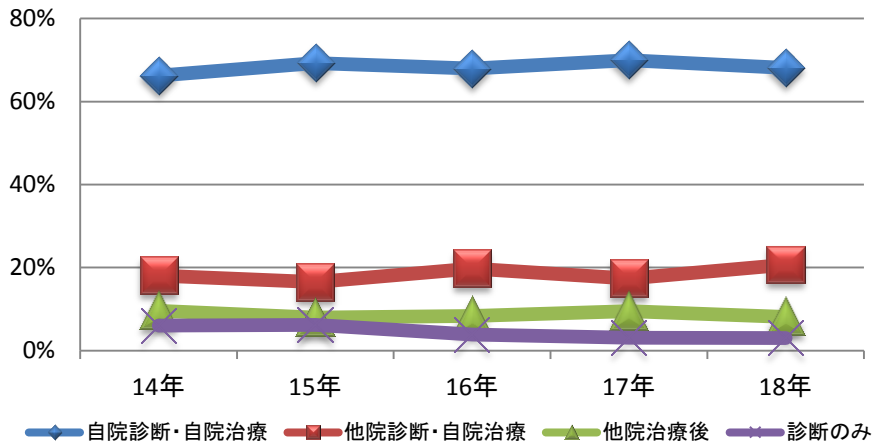


発見経緯割合(18年)
(n=2352)

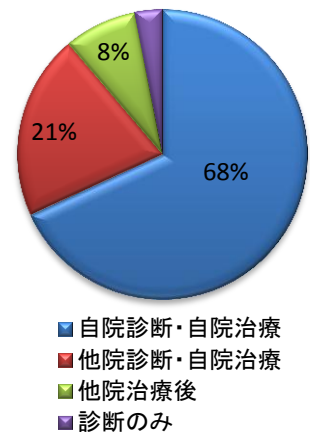


「自主・不明」と「がん検診・健診」の割合が増加傾向となっており、
18年単年では「自主・不明」の割合が約5割を占めている。

症例区分割合



症例区分割合(18年)
(n=2352)



「他院診断・自院治療」の割合が前年より増加傾向となっており、
18年単年では「自院診断・自院治療」の割合が約7割を占めている。